

『榊』を支える素晴らしい人々

千葉 明

寺田寅彦記念館友の会から『榊』が届く度に、何時も驚いたり感心したりする事がある。それは、そこに何時も寄稿されている三人の名前を見る事である。私は会員の一人として、この方々に称賛とお礼の言葉を述べたいと常々考えていたのだが、この度思い切って『榊』に投稿する事にした。これは友の会の会員諸氏には既に十分ご承知の事かも知れないが、会員以外の方にも読んで頂けるチャンスが得られるかも知れないと思ったからである。

ところで三人というのは改めて言う迄もないが、大森一彦、山田 功、四宮義正のご三氏である。氏等は寺田寅彦の研究者であると共に、ともに中谷宇吉郎の研究者であり、そして筆の立つ方々である。民間の文人科学者とでも言うべきか。

1. 大森一彦氏は仙台の人、大学の図書館に勤められた書誌学者である。氏の著された〈人物書誌大系〉の一冊『寺田寅彦』は誠に驚くべき著作で、恐らくこれに勝る寅彦に関する書誌は今後も出て来ないだろうと思われる程の労作である。そして、『榊』に二回にわたって寄稿された「Nature に紹介された寺田寅彦の論文」などを見ても、氏自身が科学者ではないかとの思いを強くする。

氏の寅彦と宇吉郎に関する書誌学的研究は並行的に行なわれ、中谷宇吉郎雪の科学館から出された『中谷宇吉郎参考文献目録』も良く知られた優れた書誌である。

私は氏がかつて田丸卓郎の学術論文を調査していた頃、その資料の収集に少しお手伝いをした事があり、何かとお話を頂いた時期があった。氏の研究範囲は広く、小宮豊隆や串田孫一のような文人にも及んでおり、時には鋭い論評もされた。

このような大森氏が亡くなられたことを『榊』の訃報記事で知り、本当に驚いた。友の会としてもかけがえの無い大切な人を失ったとの感が強いと思われる。

2. 山田 功氏は名古屋の人、大学では物理学を専攻し高校で教鞭を執られた。氏は寅彦本を読み、そして教育の場においてはその内容を自分でも出来る限り調査し、さらにその作品に直接表わされていないような背景も明らかにするという心構えをモットーにされている。そしてその事は、最近刊行された『教科書に掲載された寺田寅彦作品を読む』に於てその姿勢を実例として示している。

氏の文才のある事は、岩波新書の鶴見俊輔編『本と私』に氏の「寺田寅彦の自装本」という文が取り上げられている事でも明らかである。

山田氏も寅彦の研究と共に宇吉郎に関する造詣に深く、さらに自分で色々な実験も試み、現在でも氷や霜の偏光写真を発表するなど、氏もやはり文人科学者と言えるであろう。

氏は 2006 年に「セロファンで折った雪の結晶を偏光板で見る装置」で、学研科学大賞

奨励賞を受賞している。

3. 四宮義正氏は徳島の人、大学では機械工学を専攻し、製薬会社に勤められた。氏の寅彦を始めとした科学者、文人の調査研究におけるモットーは「物事を他人の文献のみに頼る事なく、自分で現場を確認し、実物を見、これを写真に納め、正確な事実を他人にも伝える事にある」とされているように私には思われる。そして寅彦研究の成果として最近『寺田寅彦の光跡を求めて』を自費出版された。これによって、氏の寅彦研究の姿勢をはっきりと理解する事が出来る。

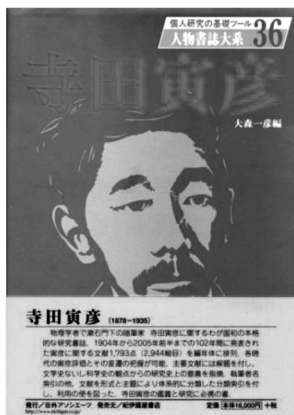
氏は寅彦などの文人や科学者に関する新しい知見の発掘に、独特の鋭い感覚を持たれているように、私には思われる。氏の研究も科学、文学にわたって極めて幅広い。『寺田寅彦の光跡を求めて』には氏が『徳島科学史雑誌』に寄稿した「寺田寅彦 ゆかりの地を巡る」が再掲されているが、私はこのような科学史に主眼を置いた科学雑誌を作っている徳島県の人々にも敬意を表したい。他県にも科学史研究会の例があるのだろうか。

氏の『寺田寅彦の光跡を求めて』は 2020 年の日本自費出版文化賞の個人書誌部門で入選になっている。

以上『榭』にかかわる、日頃敬服しているご三人について思うままに書いたが、友の会の会員として少し私事を述べさせてもらおうと、私は平成 6 年 10 月、勤務先の用務で高知県に出張する事になり、高知市内の旅館に泊まったが、夜の雑談中に、ここには寺田寅彦の記念館がある筈だという話が出て、日頃、寅彦を敬愛していた私はびっくりして、翌日同僚と共に記念館を訪ねた、

記念館では伊東喜代子さんにお会いし、「友の会」に入会した。その後、長年にわたり堀見矩浩さんや恒石直和さんに何かとお世話を頂いた。そして最初に届いた『榭』が第 11 号であったから、現在の 91 号を思えば「遙かに来つるものか」の感が深い。

『榭』の寄稿者にはその時々によれた人々が多いが、ごく最近のお三方について、日頃考えていた事を述べさせていただいた。(2021 年 8 月 13 日)



左から、大森一彦『寺田寅彦』、山田功『教科書に掲載された寺田寅彦作品を読む』、四宮義正『寺田寅彦の光跡を求めて』各表紙